



原子力機構週報

(11/16 ~ 11/22)

原子力機構近況

- 11月19日(火)、高速増殖原型炉もんじゅにおける保守管理上の不備における原子力規制委員会からの措置命令に対して、結果報告(その2)を提出したことを発表いたしました。
- 11月21日(木)、宇宙核時計ニオブ92の起源が超新星爆発ニュートリノであることを理論的に解明したことを、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台及び国立大学法人東京工業大学と共同発表いたしました。
- 11月21日(木)、反射高速陽電子回折法によりシリセンの構造決定に成功したことを、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構及び国立大学法人東京大学と共同発表いたしました。
- 原子力機構では、これまでの研究開発成果を社会に還元することを目指して「成果展開事業」を実施しています。平成26年度成果展開事業「震災対応テーマ」および「一般対応テーマ」の共同研究提案募集を11月25日(月)から開始いたします。(別添参照)
詳細は、<http://sangaku.jaea.go.jp/4-information/2013/info131122.html>
- 11月26日(火)、ニッショーホール(東京都港区虎ノ門2-9-16)において、「第8回原子力機構報告会」を開催いたします。
テーマ:「自己改革―「新生」へのみち―」
詳細は、<http://www.jaea.go.jp/news/symposium/jaea-houkoku8/top.html>
- 11月27日(水)、ニッショーホール(東京都港区虎ノ門2-9-16)において、「無限の未来を切り拓く核融合エネルギー―ITER/BA 成果報告会2013―」が核融合エネルギーフォーラム主催で開催されます。
詳細は、<http://www.naka.jaea.go.jp/etc/outreach.html>
- 12月3日(火)~4日(水)、時事通信ビル2階時事通信ホール(東京都中央区銀座5-15-8)において、「原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラム」を開催いたします。
詳細は、<http://www.jaea.go.jp/04/np/activity/2013-12-03/announce.html>
- 東京電力福島第一原子力発電所事故に関して、さまざまな活動を行っております。当該活動の全般的な内容については、下記に掲載しております。
<http://fukushima.jaea.go.jp/>



原子力機構 HP: <http://www.jaea.go.jp>

原子力機構携帯 HP: <http://www.jaea.go.jp/i/>

メルマガ登録: http://www.jaea.go.jp/14/14_0.html

各研究開発拠点等のトピックスについて

- 「第4回レーザー共同研究所成果報告会」を開催いたしました。(敦賀本部 11/21～22)
- 瑞浪超深地層研究所の施設見学会を開催いたします。(東濃 11/23 予定)
- 「第22回サイエンスカフェ in リコッティ」を開催いたします。(東海 11/30 予定)
テーマ:「宇宙の錬金術～三次元ブロック核図表で見る原子核の世界～」
詳細は、http://www.jaea.go.jp/04/tokai/science_cafe.html
- 「第5回サイエンスカフェ in 大洗」を開催いたします。(大洗 12/7 予定)
テーマ:「原子炉を触れずに診断!～大洗発、光ファイバー技術を福島原発に応用～」
詳細は、<http://www.jaea.go.jp/04/o-arai/news/2013/131112.pdf>

各研究開発拠点等のその他の状況について

- 別紙のとおり

【本件に関する問い合わせ先】

独立行政法人日本原子力研究開発機構

広報部 報道課長

中野 裕範

TEL 03 (3592) 2346

独立行政法人日本原子力研究開発機構

人形峠環境技術センター

総務課長

小椋 幸男

TEL 0868(44)2211 [代表]



原子力機構 HP: <http://www.jaea.go.jp>

原子力機構携帯 HP: <http://www.jaea.go.jp/i/>

メルマガ登録: http://www.jaea.go.jp/14/14_0.html

各研究開発拠点等のその他の状況について

1. 人形峠環境技術センター

- (1) ウラン濃縮原型プラント：滞留ウラン除去設備停止中
- (2) 濃縮工学施設：パイロットプラント遠心機処理設備停止中
放射能濃度確認対象物の放射能濃度測定中（4/16～H26/3/31 予定）

2. 本部

- ・ なし

3. 東海研究開発センター

○地震による施設の復旧作業中

1) 原子力科学研究所

- (1) 施設運転状況
 - ・ 研究炉(JRR-3)：施設定期検査中（H22/11/20～）
 - ・ 研究炉(JRR-4)：施設定期検査中（H22/12/27～）
 - ・ 原子炉安全性研究炉(NSRR)：施設定期検査中（H23/9/1～）
 - ・ 過渡臨界実験装置(TRACY)：施設定期検査中（H23/11/30～）
 - ・ 定常臨界実験装置(STACY)：施設定期検査中（H23/11/30～）
 - ・ 軽水臨界実験装置(TCA)：施設定期検査中（H23/1/11～）
 - ・ 高速炉臨界実験装置(FCA)：施設定期検査中（H23/8/1～）

2) 核燃料サイクル工学研究所

- (1) 再処理施設
 - ・ 施設定期検査中（H19/7/30～）
 - ・ 施設の点検中
- (2) プルトニウム燃料開発施設
 - ・ MOX燃料に関する研究開発等を実施中

4. J-PARCセンター

- (1) 大強度陽子加速器施設(J-PARC) 運転状況等
 - ・ 停止中

5. 大洗研究開発センター

- (1) 原子炉施設
 - ・ 材料試験炉(JMTR)：第35回施設定期検査中（H18/9/1～）
 - ・ 高速実験炉「常陽」：第15回施設定期検査中（H19/5/15～）
 - ・ 高温工学試験研究炉(HTTR)：第5回施設定期検査中（H23/2/1～）
- (2) 照射後試験施設
 - ・ 燃料及び材料の研究開発のための照射後試験実施中

6. 敦賀本部

1) 高速増殖炉研究開発センター

- (1) 高速増殖原型炉もんじゅ：性能試験中（H22/5/6～）（原子炉停止中）
 - ・ 敷地内破砕帯追加調査

2) 原子炉廃止措置研究開発センター(ふげん)

- (1) 廃止措置作業中(使用済燃料搬出期間)
 - ・ 原子炉冷却系統施設（復水器下部の内部構造物）解体撤去工事（8/30～）
 - ・ 重水系ヘリウム系等の汚染除去工事(カランドリアタンク及び重水冷却系、重水浄化系等の重水回収及びトリチウム除去)（H21/1/26～）

- ・ 重水前処理装置等を用いた γ 核種(コバルト 60 等)の除去作業 (H24/10/17～)
- ・ 第 26 回定期検査 (9/1～)
- ・ 高経年化調査作業 (原子炉再循環ポンプケーシング等の熱時効脆化調査等) (11/11～)

7. 那珂核融合研究所

(1) 臨界プラズマ試験装置(JT-60)

- ・ 装置停止中、一部機器の点検整備実施中
- ・ JT-60SA に向けた既存装置の改造準備実施中
- ・ 負イオンビームの長パルス調整試験を実施 (8/19～12/13 予定)
- ・ 高周波加熱装置の試験を実施 (10/2～12/19 予定)

8. 高崎量子応用研究所

(1) イオン照射研究施設(TIARA)

- ・ サイクロトロン：運転中 (11/9)、定期整備 (11/11～11/15)
- ・ タンデム加速器：運転中
- ・ シングルエンド加速器：運転中
- ・ イオン注入装置：運転中

(2) コバルト 60 照射施設

- ・ 第 1 照射棟：運転中、第 2 照射棟：運転中
- ・ 食品照射棟：運転中 (～11/20)、プール排水定期点検 (11/20)

(3) 電子線照射施設

- ・ 1 号加速器：運転中

9. 関西光科学研究所

1) 木津地区

- (1) 高強度場生成 T3 レーザー(J-KAREN)：調整中
- (2) X線レーザー実験装置：運転中

2) 播磨地区

- (1) 大型放射光施設(SPring-8)：平成 25 年度第 6 サイクル運転中 (11/5～11/30 予定)

10. 幌延深地層研究センター

(1) 幌延深地層研究計画地下施設(研究坑道)工事 (500m 掘削予定)：(11/22 現在)

- ・ 立坑掘削作業
東立坑 (維持管理)：掘削深度 350.5m
換気立坑 (立坑接続部覆工)：掘削深度 350.5m
西立坑 (維持管理)：掘削深度 350.5m
- ・ 水平坑道掘削作業
深度 140m 調査坑道 (維持管理)：掘削長 186.1m
深度 250m 調査坑道 (維持管理)：掘削長 190.6m
深度 350m 調査坑道 (坑道掘削覆工、グラウト工)：掘削長 721.6m

11. 東濃地科学センター

(1) 瑞浪超深地層研究所 研究坑道の掘削工事

- ・ 立坑掘削作業：(11/22 現在)
主立坑 (掘削中) 掘削深度 500.4m、換気立坑 (掘削中) 掘削深度 500.2m
坑内外設備の維持管理
- ・ 水平坑道 (深度 500m) 掘削作業 (H23/4/21～)

(2) 瑞浪超深地層研究所からの排水

- ・ 排水処理設備：放流を実施中

12. 青森研究開発センター

(1) 加速器質量分析装置 AMS による分析業務及び分析技術開発 (むつ地区)

- ・ 環境試料中放射性ヨウ素(I-129)を測定中
- ・ 環境試料中放射性ヨウ素(I-129)の分析技術開発を継続中

成果普及を目指した実用化共同研究開発の募集について —平成26年度の成果展開事業—

1. 趣旨

原子力機構は、これまでに研究開発した成果を広く一般社会に還元していくことを基本方針にしています。その一環として、原子力機構が保有している特許や研究開発成果を企業の皆様に提供し、「実用化共同研究開発」を実施することにより、企業の新製品開発を支援します。

この制度は、「成果展開事業」として、平成10年度から開始し、平成25年度までに86件の実績があります。そのうち約40%が現在までに商品化されています。

2. 特許や研究開発成果

原子力機構は、出願中のものも含め現在約1,000件の国内特許・実用新案を保有しています。また、多数の研究開発成果を発表しています。これらの中には電気、機械、化学、材料等の分野において、原子力に直接関係のない産業にも適用できるものが多数あります。特許や研究開発成果の内容は、インターネットで見ただけのようにしています。

URL : <http://sangaku.jaea.go.jp/literary.html>

3. 募集及び選定

原子力機構の特許を使用した新製品開発のテーマを「震災対応テーマ」及び「一般対応テーマ」に分けて募集します。対象は国内企業に限ります。

募集期間は平成25年11月25日（月）～平成26年2月21日（金）です。

応募のあった案件は、外部の有識者で構成する成果展開事業委員会による審査を行い、採用を決定します。平成25年度の採用予定件数は5件程度（震災対応を4件、一般対応テーマを1件程度）です。

4. 事業の内容

採用されたテーマについて、企業と原子力機構が「実用化共同研究開発」を実施し、新製品を開発します。開発期間は、原則として1年ですが、成果展開事業委員会が必要と認めた場合は、1年を限度として延長することも可能です。原子力機構は、特許等の技術支援とともに、総開発費の50%以下（最大500万円）を支出します。

5. 開発の成果

成果は、成果展開事業委員会で評価します。開発の過程で新しい特許が生まれた場合は、企業と原子力機構の共有とします。開発に成功し、製品が売れた場合は、原子力機構は売上高の一部を受け取ります。

6. スケジュール(予定)

審査	平成26年4月
契約	平成26年7月
開発開始	平成26年7月
開発終了	平成27年1月

以上